

報告事項ク

平成25年度県立学校第三者評価の実施結果について

平成25年度県立学校第三者評価の実施結果について、別紙のとおり報告します。

平成26年3月21日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成25年度鳥取県立学校第三者評価の実施結果について

平成26年3月21日
高等学校課
特別支援教育課

1 概要

平成22年度から、各年度毎に県立学校8校（高等学校6、特別支援学校2）ずつ実施している第三者評価について、以下のとおり実施しました。

2 実施状況

年度	H20 (試行)	H21 (試行)	H22	H23	H24	H25 (今回報告)
学校名	倉吉東 境港総合技術 鳥取盲	八頭 米子 倉吉養護	鳥取東 智頭農林 倉吉西 倉吉総合産業 境 日野 鳥取養護 皆生養護	鳥取西 鳥取商業 鳥取中央育英 米子東 米子工業 米子白鳳 鳥取ひまわり 白兔養護	鳥取工業 鳥取湖陵 岩美 倉吉農業 米子西 米子南 鳥取聾 県立米子養護	鳥取緑風 青谷 八頭 倉吉東 米子 境港総合技術 鳥取盲 倉吉養護
実施校数	3校	3校	8校	8校 (内分校1校)	8校	8校

3 評価の実施体制

委員数	評価委員16人及び評価専門委員8人
評価チーム数	8チーム
1評価チームの評価校数	1校
評価チームの編成	評価委員2名と評価専門委員1名

4 平成25年度の経過

期 日	内 容
H25 4月17日 8月16日	評価対象校の決定 第1回第三者評価委員会 ・本年度の第三者評価の計画及び方法 ・第三者評価の評価項目及び評価基準 ・評価対象校の概要と学校自己評価及び学校関係者評価の現状 ・第三者評価に係る研修 ・評価チームの編成、担当校の決定 ・改善計画の進捗状況について
9月～11月	各評価対象校2回（2日間）の学校訪問を実施
H26 2月21日	第2回第三者評価委員会 ・評価の決定
3月 4日	評価書の交付 … 別添資料
3月31日	評価対象校による改善計画書の提出

<参考>

平成25年度鳥取県立学校第三者評価委員会委員名簿（敬称略）

【評価委員】（○印委員長）

氏名	役職等	備考
○秦野 諭示	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科長・教授	
油野 利博	前鳥取大学附属学校部長	
西田 英樹	鳥取大学総合メディア基盤センター長・教授	
岡野 幸夫	鳥取短期大学国際文化交流学科准教授	
西原 定代	株式会社協和製作所鳥取工場アドバイザー	
齋藤 邦康	齋藤邦康税理士事務所所長	
池内 勝彦	学校法人鳥取県東部自動車学校理事長	
塩谷 隆之	株式会社彩々代表取締役社長	
辻谷 由美	米子市教育委員	
荒益 正信	元教育次長	
岩垣 和久	元倉吉西中学校長	
出脇 典子	元県教育委員会事務局障害児教育室長	
大森 克美	特定非営利活動法人STUDIO-E理事長	新規
川口有美子	鳥取環境大学環境学部環境学科講師	新規
谷本和賀雄	元県立皆生養護学校長	新規
福井 利明	株式会社エナテクス代表取締役	新規

【評価専門委員】

氏名	所属・職名等	備考
河田 透	鳥取東高校副校長	新規
山本 英樹	鳥取西高校教頭	新規
小林 幸平	倉吉総合産業高校教頭	新規
小澤 敏正	米子東高校副校長	新規
藤田 光司	米子白鳳高校教頭（定時制）	新規
陶山 俊二	日野高校教頭	新規
加賀田保憲	鳥取養護学校教頭	新規
土岐恵理美	皆生養護学校教頭	新規

平成25年度 鳥取緑風高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

鳥取緑風高校は、単位制で定時制課程の総合学科・通信制課程の普通学科を併せ持つ学校として、平成16年に開校し、今年度は創立10周年の節目を迎えられた。学業と仕事の両立を意図して入学した生徒たちの学校生活を支援しているほか、様々な学習歴等を持つ生徒のニーズに対応し、社会で自立することができる生徒の育成をミッションと考えている。

また、学校に求められる役割を踏まえ、教育の基本方針に「真摯」「自立」「共生」を設定し、教職員が真摯に生徒個々と向き合っている。

教職員一人ひとりは、進路保障が学校の課題であることを認識し、生徒の様々な発達特性に応じた指導・コミュニケーション能力の向上・人間関係づくり等の生徒支援に関する研修を通してスキルアップに取り組んでいる。また、外部人材を積極的に活用した学力向上対策として「緑風ソシオ」という大学生・大学院生等による個別学習への支援を学校独自事業で行っているところであり、効果が期待される。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

① 個々の生徒に応じた指導

基礎学力診断で実態を把握し、授業に生かしたり、放課後就職塾を年間15回開催するなど、生徒に寄り添った指導は価値ある取組である。

② 外部人材の活用

授業や学校行事で多くの外部人材を招聘し、生徒に刺激を与える機会を計画的に設けている。緑風ソシオにおける学生ボランティアの継続的な確保は、困難な点も多いが地域の大学との連携や地域人材の掘り起こし、退職教職員への協力呼びかけ等で継続していただきたい。

③ 教育相談活動

進路変更が1年次生に多い実態から、定時制昼間部1年次生を対象に、スクールカウンセラーだけでなく、養護教諭による面談もなされ、学校全体で生徒を育てようという姿勢は保護者に安心感を与える。また、面談により、生徒の状況を知ることは、生徒理解・人間関係づくりに寄与している。

④ 学校評価・授業評価

生徒や保護者による評価の機会を設けており、わかりやすくその結果も公表している。最終評価アンケートの結果を分析し、次年度につながる努力がうかがわれる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

① 職員研修

研修内容が、社会性育成や思春期の生徒とのかかわりなどに関するものが多い。少人数ならではの授業づくりの研修も企画されることを望む。

② 授業の改善

教職員で共通理解を持ち、授業を公開し、共に学び合う場が設定できるとよい。生徒の授業評価の設問「多くの授業は、内容が充実しており満足できる」の割合が減少している点は、教職員の授業力向上により改善できる。

③ 教科内・学年内・全校レベルでの教職員間のコミュニケーションの活性化

校内における分掌等組織どうしの関係性が不明確である。校務分掌が良好に機能しているか見直す必要がある。

④ 進路選択に向けた個人面談やガイダンスの充実

生徒が進路を見据えられるよう、科目選択や履修方法についての助言など、一層の支援を望む。

【講評】

総合学科高校のあるべき姿を模索しながら、生徒の実態やニーズに合わせた特色ある教育実践を行っている。進路指導においては、生徒に明確な進路目標を持たせるために系列選択制を実施し、「社会人として通用する人材」を育てていこうとしている。生徒は、自分の興味・関心のある教科を中心としながらも、進路希望に必要な教科を学習することができるようになってきている。また、生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応しており、生徒の満足できる進路結果となっている。

人材育成には生徒指導の充実が基本と考え、自己評価表の「評価項目」などを具体的な行動目標に改めて、指導の目標や方法をわかりやすく容易にしたことは評価できる。今後も引き続き、地域の学校として信頼され支持されるよう、地域との連携を十分にとりながら指導の充実を図っていくことを期待したい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 「社会人として通用する人材」の育成を学校ビジョンとして掲げ、生徒の社会性・キャリア意識を育てる工夫が系統的になされている。また、卒業生を進路指導の講師に採用するなど、身近で実際に即した指導も行われている。
- ② きめ細かく粘り強い指導と、総合学科の特色である多面的な観点からのアプローチを活かして、生徒の多様な進路希望に応え、成果を上げている。
- ③ 言語力アップ事業・国際交流事業・外国語教育などの事業、生徒の実態やニーズに添った新しい分野の指導など、他校ではあまり行われていない特色ある取組を、教育委員会と連携しながら積極的に取り組んでいる。
- ④ 保健に関する指導や相談体制を整えるとともに、体力づくりについて調査を行い、その結果と対応について生徒・保護者・教職員が共通理解を図っている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 授業が生徒の興味や関心を引くものとなるよう、指導過程の工夫、資料や機器の活用、生徒の活動を織り込むこと、少人数を活かした教室環境と指導形態の工夫・ALT（外国語指導助手）の活用など、生徒が意欲をもって学ぶことのできる授業づくりについて研究する必要がある。
- ② 実社会に通用する人材を育てるため、現在は限定的に行われているインターンシップの取組を、さらに拡充していく必要がある。
- ③ 規範意識の低い生徒もおり、生徒指導の徹底が望まれるが、教職員の意識改革を行うとともに共通理解を図って、自己評価表に掲げたとおりの指導に全力を尽くしていく必要がある。
- ④ 自己評価表の評価項目がやや観念的であり、また、目標と方策を混同した部分も見られる。具体的な指導と結びつけながら再検討するとともに、数値目標を設定するなどの改善をしていく必要がある。
- ⑤ PTA・学校関係者や地域から信頼され支援していただくために、学校の責任として情報を伝達していく手段を持つ必要がある。その一つであるホームページは、更新のタイミングを工夫する必要がある。

平成25年度 八頭高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

八頭高校では、「真摯明朗」「克己盡力」の校風を継承し、素直で、明るく、心身共にたくましい人材の育成を目指している。学校長をはじめとする教職員は、その教育方針に則り、確かな学力を身につけさせ、人格の形成に努め、地域における八頭高ブランドを高め、全県に向けコースの特色を打ち出し、魅力ある学校づくりの推進という学校ビジョンを掲げている。そのビジョンの実現に向けて今年度において①八頭高生らしい生活態度の育成、②学力向上に向けた積極的な取組、③文武両道の実践、④特色あるコースの教育活動の推進、⑤スクラム教育（校種間連携）の充実、を重点目標としており、目指す姿を具体的に設定し、教職員はコミュニケーションを図って、教育活動を展開し、多くの成果をあげている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教職員と生徒とが相互に関わり合って、一体感のある学校が形成されている。その結果、学校の雰囲気も明るく生徒は規律正しく学業や部活動に取り組んでいる。この教職員と生徒の関わり合いは、今後も大切にしていきたい。
- ② スクラム教育の中でも八頭タワー（八頭地域の小中高の学校連携）を充実させることは、地域に根ざす高校への意識を向上させることになり、また郷土の理解と愛着の醸成につながるものと思われるので、これまでの成果の綿密な検証と継続を希望する。
- ③ 県内でも質的・量的に有数の学校設備をより一層活用し、学業及び部活動においてトップレベルの成績をあげ続け、進路決定の拡大にもつなげていただくことを希望する。
- ④ 多彩で有能な人材を多く輩出した学校の歴史をふまえ、将来を担う人材としての八頭高生の夢を育み実現を支援するために、より一層の教職員の情熱と連携の発揮を希望する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 教職員への「今、八頭高校に何が必要ですか」という質問への回答には「魅力ある学校にしてほしい」「各部署をまとめることに強いストレスを感じる」などがあり、ネガティブな要素も学校現場で生じていることがうかがえる。このことから、管理職のリーダーシップがより発揮され、全教職員が一致団結し、地域と一緒に「八頭の誇り」と称される学校づくりを目標としていただきたい。
- ② 入学当初、国公立大学志望者数が7割であったものが3年次9月には5割程度になっている。生徒の授業の取組、意欲向上を図るため、さまざまな観点・立場から意見・提案が出やすくなるよう、独立した学力向上委員会を設置していただきたい。
- ③ 保健指導・教育相談に関して、養護教諭の対応が適切であり連携が図られているが、生徒の抱える問題の分析をより深め、スクールカウンセラーの知恵を借りるべく対応時間の延長をしていただきたい。
- ④ 9月に行った中間の自己評価で（C）となった「授業を大切にし、集中させる」「進路学習・個別面談による学習への高い動機づけ」「学習と部活動の両立」については、特に経過・状況分析をふまえ、あらゆる角度から改善策を検討し実施していただきたい。

平成25年度 倉吉東高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

倉吉東高校は、鳥取県中部地区の進学校として、中長期目標を『倉吉東高のかたち』（倉吉東高の学校目標と教育活動内容を示した概念図）の理想に沿った様々な教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす」と定め、全教職員が連携協力して事に当たっている。

特に、学校長のリーダーシップのもと、学校ビジョンと連携した数多くのユニークな企画を提出している。こうした「攻めの姿勢」が生徒にも波及し、生徒の主体性の育成につながることを期待する。

平成24年度に分掌組織を大幅に再編し、「キャリア形成部」「活動創成部」「企画推進部」「連携発信部」の4部構成とした。これら各部が重点目標を設定し、PDCAサイクルに基づき組織的に教育活動を展開している。学年団との連携・協働にまだ課題を残すが、新しい分掌は概ねよく機能しており、重点目標として掲げる「主体的学習者の育成」「キャリア教育の充実」「積極的な活動の創成」「広報連携力の強化」「定時制教育の充実」は成果をあげているものと認められる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 主体的な学習者の育成を目指し、授業にアクティブラーニング（能動的学習）の手法を取り入れている点は大いに評価される。アクティブラーニングの研究推進を重点目標とし、多角的な研修を行っている。また、定時制では生徒の実態に配慮し、同一科目を複数学年の生徒が受講できるよう、教育課程を弾力的に運用している。
- ② 上級生をアドバイスや相談に応じるチューターとして下級生とふれあえるようにし、生徒同士の縦横の絆を育むシステムを活用している。また、「国際高校生フォーラム」（国外や県内外の高校生が現代社会の課題について提言を行う）を主催し、生徒の能力向上・成長に資するようにしている。
- ③ 1年次から進路指導を行っているが、単なる志望校調査ではなく、生徒自身が目標をもって学校生活を送れるような指導をしている。また、定時制では、生徒の家庭・職場を訪問して生徒の状況把握に努めている。
- ④ 生徒の人生観・職業観を養うため、保護者を講師とする企画「大人（おせ）の一言」や「OB講演会」、卒業生との座談会など、社会人としての資質や、学びと社会とのつながりを理解する機会を豊富に設けている。
- ⑤ 学校評価委員会を年3回（5月、9月、2月）開催し、より綿密な改善を行っている。
- ⑥ 学校として数多くの独自事業を企画し、県下でもトップクラスの学校裁量予算を獲得している。こうした「攻めの姿勢」を今後とも継続し、よりよい教育システムの構築に活かしていくことを期待する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 社会人講師の活用がやや限定的である。外部人材の活用によって教育効果を高められる部分がないか、引き続き検討が必要である。
- ② 授業評価アンケートの分析から、生徒の学力の二極分化が認められるため、対応策を検討することが必要である。また、数値が低い項目についての改善策を検討することも必要である。
- ③ 環境教育について、目標を十分には達成できていないところが認められるので、今後も継続的に教育を推進する必要がある。

平成25年度 米子高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

学校長は、「生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材の育成」を学校ビジョンに掲げ、総合学科の高校として「夢を描こう『自分色』の」をテーマに各系列でめざす生徒像を示している。本校の新たなステージをめざす教育目標の実現に向け、教職員の学校経営ビジョンの共有化、学校運営組織の再編・見直しを図っている。教職員は熱意をもって丁寧な指導に努めており、学習集団の雰囲気は良好である。本年度、授業改革委員会（学び創造委員会）を立ち上げ、生徒に身につけさせたい学力「主体的に学び、考え、表現できる力」の共通理解のもと、新しい学習科学に基づく主体的な学習への授業改革をスタートさせている。学校の教育課程は幅広く開設された共通科目及び専門科目からなり、大学進学から就職まで幅広い進路に対応している。1年総合学科原則履修の「産業社会と人間」、2年総合的な学習「キャリア教育とプレテーマ学習」、3年総合的な学習「テーマ学習」は特色あるキャリア教育の取組と言える。生徒の活動も活発で、総合美術展、パフォーマンスアーツ（演劇・吹奏楽・ダンス部発表公演）、国際交流活動など展開している。部活動は運動部、文化部とも盛んで優秀な成績を上げている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① ホームルーム活動は、学校行事との関連を図り、各内容項目を踏まえた指導計画であり、その中で望ましい人間関係の育成や学習環境づくりの指導により学習集団の雰囲気は良好である。
- ② 総合的な学習の時間は、進路について考察する学習活動として大学教員等の外部人材の活用を図り、1年「産業社会と人間」、2年「キャリア教育とプレテーマ学習」、3年「テーマ学習」の内容改編を検証しつつ取り組み、学習成果は全学年とも学習成果発表会で公開している。
- ③ 学校図書館活動は、テーマ学習等での図書館利用、読書活動での朝読書の取組、積極的な読書案内などにより生徒一人当たり図書貸出冊数、借り受け図書資料は増加し、学習情報センター、読書センターとしての学校図書館運営に努めている。
- ④ 進路指導体制の改革に取り組み、進路指導部と学年担任会の連携した指導体制のもと進学・就職指導、進路相談、進路学習を年間指導計画に基づいて進めている。全教職員の小論文指導、大学・短大等の学校訪問による進路情報の収集、提供に努めている。
- ⑤ 特別支援教育は、校内支援体制を整備し、特別な支援を必要とする生徒の把握、個別の指導計画、教育支援計画の作成までのフローチャートを作成し、教職員に周知する情報交換会、教職員研修会を実施している。年2回の支援対象者の保護者からの情報収集や、新たに個別の教育支援計画が作成しやすいチェックシートを作成している。
- ⑥ 学校に関する情報公開では、学校の教育活動や生徒の活動等をPTA会報をはじめ進路指導室INFORMATIONなどで保護者に届けるとともに、学校ホームページの改編・更新に努め、メールサービスの活用用途の増加と普及促進を進めている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学校の教育目標達成に向け系列ごとの履修教科の授業充実が重要課題である。年2回の授業公開週間を設けているが、教科別合評会や対外的な授業公開の取組の工夫が求められる。また生徒の授業評価は学年ごとの集計となっているが、個々の教職員の授業改善を求めるものにする必要がある。授業改革委員会（学び創造委員会）を中心に新しい学習科学による主体的な学習や視聴覚機器を活用した授業改革の取組が期待される。
- ② 学校図書館経営は評価できる取組であるが、学校図書館を学習情報センター、読書センター、教材センターとして全校的機関として位置づけるためには学校図書館経営計画及び図書館教育全体計画の策定が必要である。
- ③ 学校の生徒指導は生活指導部、教育相談部、学年担任会が主に担い、全教職員の共通理解のもと生活指導に力を注いでいる。生徒指導は教育課程の内外にわたって働く機能としての教育活動であり、開発的、予防的そして治療的な生徒指導を内容とする生徒指導の全体計画の策定が必要である。
- ④ 自己評価は、重点目標達成のための学校独自事業の実施など具体的取組を評価項目とし、その進捗状況をもって評価基準として評価しているが、具体目標の到達内容や行程を評価指標とする評価基準のあり方の検討が必要である。
- ⑤ 3年保護者アンケートで、学校評価、意見や要望の把握に努めているが、全保護者による学校評価、意見や要望を把握する方策への工夫改善が求められる。

平成25年度 境港総合技術高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

境港総合技術高校は、平成15年4月に開校し、水産学科・工業学科・福祉学科の3学科を有する総合選択制高校である。この特色を生かして、生徒の能力・適性、興味・関心に応じた授業を展開し、幅広い産業の技術を学ぶことができる。

「友愛・創造・自律」を校訓として、地域や地元産業界に貢献できる人材の育成をめざした教育にあたっている。このビジョンのもと、今年度は次の4点を重点目標として掲げている。①基本的生活習慣の確立、②基礎学力の向上、③キャリア教育の推進、④地域との連携と情報発信、この重点目標にしたがって、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる姿が見られ、良好な学校運営がなされていると言える。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学習指導において、総合選択制の特色を生かした数多くの取組が展開されている。地域の人材を適切に活用するなど幅広い学びと実社会で求められる力の育成がなされている。
- ② 進学、就職ともに学年・学科・進路指導部が一体となって丁寧できめ細かな指導がなされている。就職率100%の実績、進学希望者の高い合格率など、目標実現のための総合的な取組は大変評価できる。
- ③ 校務分掌組織・任務分担が明確で、分掌組織図により一目瞭然に示されるとともに、報告・連絡体制などが確立され、組織が適切に運営されていることは評価に値する。自己評価に関するPDCAサイクルが確立され、校内の運営委員会も機能している。学校評議員や学校関係者評価委員は、様々な立場から選出され、活発に意見交換が行われている。学校運営全体について、改善意欲が高いと認められる。
- ④ 今年度、30回以上の新聞記事掲載、PTA便り、学年通信、生徒会通信など情報発信に努め、生徒・保護者はもとより、県民の関心を引きつけていることは高く評価できる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学習指導について、生徒による授業評価を基に改善点などが教科で検討されている。しかし、教職員相互の授業参観による研修の機会が少なく、今後、組織的な取組の推進が望まれる。
- ② 学校の教育理念や教育目標について、年度当初に教職員へ周知されているが、その浸透について一層の工夫が望まれる。
- ③ 自己評価において、保護者アンケートが実施されておらず、早急な対応が望まれる。PTA活動への保護者の参加について、保護者アンケートによりニーズを把握するなど活性化への取組が必要である。
- ④ 生徒指導に関して、問題の未然防止などに取り組んでいることは評価できる。今後、遅刻者の減少など家庭との一層緊密な連携が望まれる。また、部活動について、一層の活性化のために加入促進の努力が望まれる。
- ⑤ 教職員自ら5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の意義を理解した上で、学習環境について生徒指導にあたっていただきたい。

平成25年度 鳥取盲学校 第三者評価 評価書

【講評】

『視覚障がいについての配慮と工夫を大切にしながら、自立に向けて最適な教育環境を提供する』という学校のミッションのもと、「～わかるように、わかりやすく、わかるときに～」をキーワードに教育活動が行われている。具体的な学校経営は、①指導力・専門性の向上、②キャリア教育の推進、③教育環境の整備充実、④視覚障がい教育の啓発と発信、の4つに重点を置いている。

10名の児童生徒は点字や拡大読書器、点字ディスプレイ（ブレイルメモ）、パソコン、ルーペ、iPad等の機器を活用しながら、学習や課外活動等に励んでいる。小学部から専攻科まで幅広い年齢層の児童生徒が在籍していることから、将来の自立と社会参加にあたっては、学校として一貫性のある指導及び支援を積み重ねており、児童生徒の幅広い教育的ニーズに応えるため、教職員は進路先の資料収集等と情報提供に努めている。また、県内で唯一の視覚障がい教育の特別支援学校であり、保健医療科、専攻科医療科の生徒は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格取得を目指し、専門的な知識と技術の取得に向けて、学習に取り組んでいる。今後も教員の専門性や指導力向上につながる研修や教育実践の充実を期待する。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学校目標については、学校自己評価で明確となった課題や、学校関係者評価委員会での提言を受けて、次年度に向けての改善を行うなど取組も進んでいる。学校長から教職員に対して学校経営方針やビジョン等が分かりやすく提示され浸透してきている。また、学校の円滑な運営となるよう、校務分掌の再編等、組織運営の工夫改善が行われている点が評価できる。
- ② 児童生徒一人一人の障がい特性や状態に配慮した指導の充実や、将来の自立と社会参加に向け、関係機関と連携した適切な進路指導が行われている。特に、職場開拓や進路先の情報収集等を基にして、児童生徒や保護者へ適切な情報提供を行っている点は、一人一人の進路実現に向けた校内支援として評価できる。また、幼児教室や居住地交流も計画的な運営がされており、県内の視覚障がい教育の拠点として期待できる。
- ③ 視覚障がい教育について、メディアを通じた情報発信や生徒によるボランティア活動等を積極的に行い、地域への啓発活動を積極的に行っているところが高く評価できる。今後も地域貢献活動を継続していただきたい。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 異年齢の児童生徒の集団の良さを生かした全校行事や、外部講師による情報モラルについての学習などの取組が見られるが、今後更に、豊かな人間関係作りに向けた指導や、社会の一員としてよりよい生き方を考える学習の機会の充実を進めていただきたい。また、在籍する児童生徒の減少に伴い、授業形態や集団の構成の工夫や指導法の検討を行い、自己表現力や他者理解の力の育成に努めていく必要がある。
- ② 一貫した支援や将来の自立と社会参加に向け、個別の教育支援計画や移行支援計画が作成されているが、効果的な運用については検討が必要である。作成にあたっては、保護者や医療機関・福祉機関とも十分協議を行うなど工夫を要する。今後とも医療機関や福祉機関等と連携し、個別の教育支援計画、移行支援計画の活用を更に進め、個々の児童生徒への指導の充実を目指していただきたい。
- ③ 教育委員会と連携し、学校・生活環境の充実のための取組を今後とも充実していくため、空き教室の有効利用・校舎内の修繕等を行い、施設・設備の有効活用を更に進めていただきたい。

平成25年度 倉吉養護学校 第三者評価 評価書

【講評】

倉吉養護学校は県内で唯一、知的障がい教育部門と肢体不自由教育部門を併せ置いている特別支援学校である。在籍児童生徒の障がいの状態は多様化しており、肢体不自由教育部門においては痰の吸引や経管栄養等の医療的ケアを必要とする児童生徒も在籍する等、重度・重複化も進んでいる。こうした状況の中、教職員が一人一人の児童生徒の存在を大切に、「はたらく」「たのしむ」「かかわる」「くらす」「ささえる」の5つの力を教育活動の基盤としながら、現在から将来を通じて豊かに生活する子どもの育成を目指した教育を進めている。

教職員は全体的に明るく前向きな姿勢であり、日頃から児童生徒との強い信頼関係を築きながら教育にあたっているという状況がうかがえる。

今後も保護者はもとより、近隣の障がい児入所施設、医療機関、福祉機関、労働機関等との連携を一層図りながら、一人一人の児童生徒の自立と社会参加に向けた取組を推進するとともに、特別支援教育のセンター的機能を発揮し、地域の小・中学校、高等学校等から頼られる学校となるよう、質の高い実践に努めていただきたい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教職員が児童生徒一人一人の存在を大切にしている姿勢を高く評価する。児童生徒の実態把握や課題分析等が丁寧になされ、実態に合わせた魅力的な教材が多数製作・活用されている。また、社会人講師を積極的に活用し性教育や人権教育の充実を図る等、人の命や存在を尊ぶ学習が計画的に行われている。
- ② 校内・外の児童生徒及び保護者等に対する教育相談の実施、発達障がいに係る教育の拠点として通級指導教室の充実等、地域からの信頼に応えられるよう校内体制が整備され、特別支援教育のセンター機関としてしっかりと役割を果たしている。
- ③ 学校の自己評価によって明らかになった課題や外部評価委員等による意見・提言等が次年度の計画に反映される等、PDCAサイクルに沿ってよりよい学校経営を目指した取組が着実に進められている。
- ④ 教職員の専門性の向上を目指し、全教職員が公開授業研究会を行ったり、指導案検討を行ったりする等、授業改善を目指した真摯な取組が進められている。また、各分掌や教科担当により、外部講師を招いての研修会や校内研修会等にも熱心に取り組んでいる。こうした取組の成果が目に見える形となり結実することに期待する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 震災、水害等、近年の自然災害等の状況をふまえ、安全・防災の観点で今一度防災計画を見直していただきたい。特に、倉吉養護学校は河川沿いに建っているため、より実質性の高い避難計画へと改善していくことが望まれる。また、各教室に緊急時の対応、避難経路を掲示する等、日頃から適切な対応の備えをしておくことが必要である。
- ② 各教科等の年間指導計画、個別の指導計画、グループ別の指導計画等、様々な計画書が作成されているが、これらが十分に活用しきれていない状況が見受けられる。計画が多岐に渡り、また緻密であるが故に、教員が作成業務に追われている現状があるように見受けられる。各計画書における記載項目等の見直しを図り、PDCAサイクルに沿って十分に活用できるものとしていただきたい。
- ③ 近年、国及び県においても、企業等における障がい者の雇用促進が図られている。こうした方向性をふまえた進路指導の実施、キャリア教育の充実を目指していただきたい。実習先の開拓は充実しているので、現場実習の機会等を捉えて卒業後の暮らしについて考えたり、作業学習等において自らの課題の改善・克服等に積極的に努めようとする意欲・態度の育成を図ったりしていただきたい。
- ④ 保護者による学校評価の回収状況が十分に満足できる状況ではない。保護者が来校した機会を捉え、学校に対する意見や要望等を出しやすいような場の設定等の工夫を試みているが、まだ成果としては現れていない。会の持ち方や意見集約の方法等について工夫を重ねながら、保護者の学校教育への参画を推進していただきたい。